

業界誌4社に当社の技術開発について掲載

大深度における地下水採取技術と微生物分析技術を統合した高品質地下調査技術について、業界紙4社に掲載されました。

日刊建設工業新聞  
(2019年10月23日付3面掲載)

**地下構造物 候補地選定を支援**  
アサノ大成基礎エンジニアリング

アサノ大成基礎エンジニアリング(東京都台東区、平山光信社長)は、地下構造物の建設候補地選定を支援する調査手法を開発した。大深度地下に存在する地下水の採取技術、微生物の有無をモニタリングする手法を活用。地下水の環境を把握し、最適な建設地の選定に役立てる。従来技術

アサノ大成基礎エンジニアリング(東京都台東区、平山光信社長)は、地下構造物の建設候補地選定を支援する調査手法を開発した。大深度地下に存在する地下水の採取技術、微生物の有無をモニタリングする手法を活用。地下水の環境を把握し、最適な建設地の選定に役立てる。従来技術

地下トンネルや石油貯蔵施設を建設する場合、地下水が流れていない安定的な環境が求められる。このため数百メートルの深さを掘削するボーリング調査によって、長時間かけて地下水を採取する必要があった。

日刊建設通信新聞  
(2019年10月24日付3面掲載)

2019年(令和元年)10月24日(木曜日)

**大深度地下水 採取時間10分の1に**  
アサノ大成基礎エンジニアリング 高精度に微生物分析

新しい地下水採取技術

奥平 啓文 浅井 伊高 菊川 月昇

オリエンタルコンサルタン「環境が求められる。こうした実験室まで運搬して分析するツクル」のアサノ大成基礎エンジニアリング(東京都台東区、平山光信社長)は、大深度地下水を採取する際の課題を解決し、採取時間を従来の10分の1に短縮した。高レベル放射性廃棄物の処理施設や大深度地下構造物の建設の際の地下水調査に活用できる方法として、各方面に展開する。

原子的な高レベル放射性廃棄物の処理施設や大深度地下構造物の建設の際の地下水調査に活用できる方法として、各方面に展開する。

地下トンネルや石油貯蔵施設を建設する場合、地下水が流れていない安定的な環境が求められる。このため数百メートルの深さを掘削するボーリング調査によって、長時間かけて地下水を採取する必要があった。

アサノ大成基礎エンジニアリング(東京都台東区、平山光信社長)は、地下構造物の建設候補地選定を支援する調査手法を開発した。大深度地下に存在する地下水の採取技術、微生物の有無をモニタリングする手法を活用。地下水の環境を把握し、最適な建設地の選定に役立てる。従来技術

